

いしのまい

たからだの里のおいしい『石野米』とは、

たからだの里で育まれたお米、たからだ米の中でも石野の土地にできし稲穂、阿讃山麓の元に沸き出ずる水面に端を発し清流となし溪道川より取水し、財田川に帰る。昼夜の寒暖の差により、おいしいお米となり『石野米』と名づけたり。財田の中でもおいしい米と評判のこの『石野米』の収穫の喜びを分かち合えるものとして、今一度、ご賞味いただきとう存じます。

石野の地は、正宗、石野上、戸川、石野下の4集落からなり石野営農集団として活動いたしております。

石野の正宗は、大河城の出城より城主の五輪の塔を大膳神社に移し墓地とし「埋葬峰」から正宗といわれた。

石野は、中世「一色野」とも言われていた。

戸川の地は砥川とも書き、弘法大師が本山寺建立のため大師谷より木材を切り出したとき、この川で斧を研いだと伝えられる。石ノ塔は、旱魃の年には、溪道龍王宮におこもりをして祈願し、石ノ塔の山頂で雨乞いの大火をたいた所である。この雨乞いのおかげで、雨が降り、石野に豊穡をもたらした。石野の土壌は、細粒灰色低地土壌でマンガン結核をもち保水も良好で、排水もよく生産性が高い土壌である。そのような特においしいお米の消費拡大のため、新米イベントはもちろん、広く、たからだ米のPRもいたしております。

『たからだ米』とは、

当地は、古くから『たからだ』とよばれましたが、往古大旱魃に五穀が実らず大飢饉にひんした時、ひとりこの地が豊穡し、産米を天子に献上したところ「たからだ」の名を賜ったという伝承に由来します。

また、「西讃府志」に「稲財田ニ産ル米最モヨロシ………」と記されている。

財田における産業の中で、米の生産はもっとも重要なものであり、良質の米を生むことを誇りにしてきました。そして、大正四年の大嘗祭における主基斎田に関与する光栄に浴したのです。たからだ米、特に『石野米』のおいしさを是非ご賞味ください。

「財田の八束の足穂刈りつみて

民の心も豊かなるらむ」 入江為守